

沼田探訪



東京学連剣友連合会
理事 野田 知宏

東京学連剣友連合会では、毎年ではないものの1泊2日の合宿を「武者修行」と称し、主に関東近郊の縁の地に赴き、地元剣連の方々との交流を一番に考え、毎回多くの諸先輩方に参加していただいています。今年で16回目を数え、過去には館山・三島・福島等訪れて、各剣道連盟様のお世話になっております。今年の武者修行先は、3月19・20日、奇しくもNHK大河ドラマ「真田丸」でも脚光を浴び、軍事的にも商業的にも重要な拠点であるが故に、いにしえの英雄たちが覇権を繰り広げた上州沼田でありました。今回の「武者修行」は、剣の修養はさることながら、見聞を広め今後の剣道人生において如何に得るものを期するかを目的としております。

高橋 亨会長より呼び出しを受け、「今年の武者修行は沼田でやりたい。できれば観光も……。沼田城はどうだろうか。」開口一番相談された私は、「観光をするのであれば、できるだけ沼田城の歴史を調べておきます。」と断言して早速沼田の歴史を調べることにいた



沼田城から位置を確認する一行

しました。
沼田城は、『国史大辞典』によると、関東管領上杉憲政の配下であった沼田顕泰によって城が築かれ（当初は倉内城と称す）、天正8年（1580年）真田昌幸が後北条氏から入手したところから沼田城とよばれたそうです。犬伏の別れで豊臣方に昌幸・信繁（幸村）、徳川方に信之となりますが、沼田は徳川方についた信之によって天和元年（1681年）まで真田領（沼田藩）として存続することになります。



沼田城本丸跡

実際に武者修行2日目に沼田城址公園を散策してみると、いかに天然の地形を駆使して築城されたかが理解できました。それは真田昌幸の叔父である矢沢頼綱が守る沼田城に後北条氏が数度大軍を送ったにもかかわらず、攻略できずいたことからわかります。

もともと沼田は、『太平記』巻十に「沼田庄ヲ要害ニシテ、利根川ヲ前ニ当テ敵ヲ待ン。」と記述がありますように、築城される以前からも軍事上の要衝だったと考えられます。近世になるとこれまでの軍事的な役割もさることながら、諸街道筋が整備され各街道の基点となります。

武者修行を通じてふと学生時代

に野間道場のご縁で、元大英博物館のビクター・ハリス氏のご自宅にホームステイしたことを思い出しました。彼の奥様の加津子さんは私に、「日本人は自分の国の歴史を知らない人が多いわ。恥じるべきよ。」と言われたことがあります。剣道人は剣を交えることはもちろんですが、行った先の地域の歴史を知ることは相手の懐に入り込む上でも重要なことだと思います。ましてや剣道の国際化ということも考えると、彼女の言葉はずっと重く突き刺さります。歴史や文化を探ることは、意外と剣道の上達のヒントも隠されているのかも知れませんね。

1979年生まれ愛知県出身。滝学園から鶴見大学・同大学院文化財学専攻卒。文化財学修士。幼少よりエレキトーンを続けていたこともあり、在学中に雅楽を始め宮内庁楽師に手ほどきを受ける。NPO法人上野雅楽会代表。

ざいひ



(カット・青木千代子)